

しっぽ通信

大型台風10号に見舞われたお盆でしたね。この時期、気圧の変化が原因で頭痛などを起こす方もいるように、動物達の身体にも少し異変があるかもしれません。

犬猫の皮膚トラブル

夏はヒトも犬猫も痒みなどの皮膚トラブルが多い季節です。犬猫にはどのような皮膚トラブルがあるのでしょうか。

犬猫は全身をたくさんの毛に覆われているので（もともと毛の少ない種類もいますが）、見た目では皮膚トラブルに気づきにくく、また、痒みに対して我慢しないため、掻き崩し悪化させてしまうことも多いです。なかには掻き崩した傷に雑菌が繁殖して、膿んでしまうこともあります。

皮膚を痒がったり脱毛したりする原因には、アレルギー、寄生虫、ホルモン疾患、代謝性疾患、心的ストレス、腫瘍、気温・湿度、栄養の偏りなど様々です。

原因や症状によって治療法も様々ですが、掻き崩しなどにより悪化してしまうと、当初の症状がわかりにくくなり、治療も困難になってしまいます。いかに早期に治療を始め

られるかで治り方も変わってきます。また、原因によっては完治が難しく、痒みなどのコントロールをしながら、うまく病気と付き合っていくケースもあります。

いずれにしても、痒みなどの不快感を取り除き、犬猫が快適に過ごせるようにするのが鍵となります。

治療は臨機応変に！

一般的に皮膚トラブルの治療には、シャンプーや塗り薬などの外用療法、内服薬やサプリメントなどの全身療法、食事療法、駆虫、場合により外科的治療などがあります。

治療のパターンとしては、外用療法と全身療法を組み合わせたり、食事療法をベースに外用療法・全身療法を適時行ったりと、個々の症状の出かたや程度などにより臨機応変に対応していきます。

例えば根底に食事やアトピーなどのアレルギーがある場合は、普段からできる限りアレルゲンを排除しつつ、痒みの症状が強い時には一時的に痒み止めを使用します。寄生虫による場合は寄生虫の駆除、ホルモン異常による場合はホルモンの治療を行いつつ、掻き崩しなど、皮膚自体のトラブルの治療も併用していきます。

症状は早期キャッチ！

犬猫が皮膚トラブルを起こしている時の主な症状は、『足で掻く』『局所的に皮膚を舐める』『毛をむしる』『家具などに皮膚をこすりつける』『落ち着きがなくなる』『眠りが浅くなる』『食欲や元気が落ちる』『抜け毛が増える』『ハゲができる』『フケが増える』『皮膚が臭う』『毛や皮膚がベタつく』『皮膚が赤くなる』『湿疹ができる』『カサブタができる』『毛玉ができる』『分泌物が出る』『毛が固まる』などです。

ひとつでも当てはまることがあったら皮膚トラブルが起こっているかもしれません。様子を見すぎず、早めに受診しましょう。

効果的なシャンプー法

薬用シャンプーは薬効成分をしっかり皮膚に浸透させる必要があります。そのため、いくつかコツがあるので紹介します。

手順① ブラッシング

★コツ★ 正常な皮膚よりもデリケートになっているので、傷を付けないように優しく毛の絡まりを取り、大まかな汚れを取る程度にする。

手順② 予備洗い (36°C程度のぬるま湯) ※皮膚を温めると痒みが増します

★コツ★ シャンプーが浸透しやすいようにぬるま湯でよくすすぎ、皮膚をよく湿らせる。

手順③ シャンプー

★コツ★ 皮膚の上で泡立てるのではなく、スポンジや泡立てネットなどでよく泡立て、泡でマッサージするように優しく洗う。

★コツ★ 薬効成分を効かすために、皮膚に馴染ませてから10分程度置く。そのとき、皮膚トラブルのあるところから洗っていき、シャンプーを浸透させる時間が稼げる。

手順④ すすぎ (36°C程度のぬるま湯) ※皮膚を温めると痒みが増します

★コツ★ 薬用シャンプーでもすすぎ残しがあると新たな皮膚トラブルの原因になるため、時間をかけてよくすすぐ。特に耳のうしろ、肉球・指の間、脇の下、内股などはすすぎ残しやすい場所なので念入りをする。

手順⑤ 乾燥

★コツ★ タオルで水気を吸い取るように拭き、ドライヤーは冷風にし、毛の根元から乾かす。

マイクロチップあれこれ

2019年6月12日に『マイクロチップ埋め着けの改正動物愛護法』が、国会で成立しました。簡単に言うとこれは動物販売業者に対して「販売前の犬・猫に対してマイクロチップを装着する義務がありますよ」というもので、既に飼われている犬・猫に対しては『努力義務』という「できるだけマイクロチップの装着をしてくださいね」ということです。

マイクロチップ装着の義務化により、災害時など、不測の事態で飼い主と動物が離別してしまった時に、高確率で飼い主の元に戻れる、また、飼い主が特定できることにより、捨て犬・捨て猫などが減る可能性も高くなるという利点が多いのです。

イギリスやアメリカなど多くの先進国ではペットのマイクロチップ装着率は高いのですが、日本は1995年の阪神大震災をきっかけに関西地方から一般的に普及し始めたものの、2011年の東日本大震災では、まだまだ普及が全国的に進んでいないことが露呈しました。

どんなモノなの？

動物の体内に埋め込む、直径2mm、長さ12mmの生体適合ガラス（鉛を含まないガラス）で出来たカプセル型電子標識器具です。埋め込み方法は専用の注射器で注入します。一般的には犬・猫の首のうしろ（皮が一番ゆるい部分）に埋め込みます。耐久性は30年程度で、ペットの寿命を考えると十分な耐久年数といえます。安全性も高く、現在に至るまで故障や外部からの衝撃等による破損は報告されていません。使用可能年齢は、犬は生後2週齢、猫は生後4週齢です。

マイクロチップには世界で唯一の15桁の数字が記録されていて、その番号と飼い主や動物の情報を動物ID普及推進会議（通称AIPPO）に登録することで、いわゆるペットの戸籍のようなモノが出来るわけです。

登録は絶対！！

例えばペットとはぐれてしまい、誰かに保護をされた場合は、動物病院や動物愛護センターに連れて行かれる子が多いと思います。

そういった施設ではマイクロチップの専用読み取り器を設備しており（残念ながら読み取り器の無い施設もあります）、番号を読み取り、AIPPOに照会し、あらかじめ登録されていた飼い主に連絡が行き、迅速に飼い主の元に戻ることが出来ます。

マイクロチップを埋め込むのは動物病院で行いますが（もしくはペット購入時に既に埋め込んである）、飼い主やペットの情報登録は、飼い主が行う必要があります。

実は、迷子になり保護されても、残念なことにマイクロチップが入っているのに、飼い主登録がされていないペットが非常に多いのが現状です。

マイクロチップを埋め込んだ時は、動物病院（もしくはペットショップ）から登録申込書を渡されますので、必ず申し込みをしてください。

外れない安心感

「狂犬病登録札（犬）や名札を着けるからマイクロチップまでは必要ない。」「体内に入れるのは抵抗がある。」「と言う方もおられるかもしれませんが、災害時や、迷子などで保護される子には、首輪が外れてしまっているケース

が多く見られます。特に猫などの首輪は、木の枝などに引っかけて、首つりなどの事故を回避するために、あえて外れやすい構造になった製品も多くあります。

その点マイクロチップは皮下に埋め込むので、外れてしまう心配はありません。

また、前述したように安全性も高く、埋め込む時の痛みも一般的な注射と差ほど変わりません。

昨今、日本は大きな災害が増えています。備えのひとつとして、ペットへのマイクロチップ装着を前向きに検討してみてはいかがでしょうか。

埋め込みから登録までの流れ

当院でもマイクロチップの埋め込み（要予約）が出来ます。

●予約

お電話を頂いたら、マイクロチップを取り寄せますので、数日お時間をいただきます

●マイクロチップ埋め込み

通常の注射と同じ要領で行います

●申込書に必要事項記入・捺印

登録申込書は当院からお渡し致します

●AIPPOへ登録料の振込

（1000円）

専用振込票もお渡し致します

●振込受領書の貼付

AIPPOへ送る登録申込書に貼付が必要です

●登録申込書の送付

専用の封筒もお渡し致します

●登録完了

AIPPOより登録完了通知が届きます

混み具合にもよりますが、登録完了までに約1ヶ月程度かかります。

AIPPOのデータベースには『飼い主名』『住所』『連絡先』『マイクロチップ番号』『ペット名』『動物種』『毛色』『生年月日』『性別』が情報として登録されます。